

ご利用ください

期日前投票

市役所市民ホール(本庁舎1階)

7月5日(金)~20日(土)

午前8時30分~午後8時

各公民館

7月16日(火)~19日(金)

午前8時30分~午後5時

持ち物 投票所入場券

※未着の場合は不要です。

※入場券の裏面に宣誓書が印刷されていますので、事前に記入のうえ、ご持参ください。

公示・立候補届出日 7月4日(木)
投票日時 7月21日(日) / 午前7時~午後8時
※国会の会期などにより、投票日が変更する場合があります。
投票所入場券 各世帯に郵送しますので、切り離して入場券に記載の投票所へ持参
※紛失した場合は、投票所で再発行できません。
投票できる方
▽年齢要件 平成13年7月22日以前に生まれた方
▽住所要件 公示日前日に3カ月以上本市の住民基本台帳に登録されている方

7月21日(日)は投票日です!
参議院議員通常選挙

選挙管理委員会

☎202236



▼不在者投票

① 指定の病院や老人ホームに入院、入所している方
② 長期出張中などの方
③ 一定等級以上の身体障害者手帳や介護保険者証などをお持ちで投票所に行けない方
④ ①は施設の職員、②③は同委員会までお問い合わせください。

●選挙公報

配布方法 新聞折り込み

※市役所市民ホール、各公民館、市民会館、市民プラザ、市民体育館、生涯学習センター、各幸楽荘および市ホームページでも入手可。

●開票(即日開票)

時間 午後9時5分から

会場 市民体育館

※自由に参観できます。

市指定史跡 行基平山頂古墳出土の埴輪が出品!
発掘された日本列島2019

文化課・☎202230



本市で出土した埴輪17点が、

文化庁などの主催で毎年開催されている同展示会に出品されています。本県からは4年ぶりの出品で、来年2月末にかけて東京、岩手、青森、愛知、福岡で巡回展示します。

期間(東京) 7月21日(日)まで /

午前9時30分~午後5時30分

※土曜日は午後7時30分まで、

19日(金)は午後9時まで。

※入館は閉館の30分前まで。

※15日(月)を除く月曜日、16日(火)休館。

場所

江戸東京博

物館(墨田区)ほか全

国4カ所



料金 ▽一般 600円

▽大学・専門学校生 480円

▽中高生・65歳以上 300円

※7月19日(金)は午後5時から学生は無料、一般・65歳以上は団体料金。

★行基平山頂古墳とは

足利織姫神社のある機神山に

分布する『機神山古墳群』のうち

の一基(前方後円墳)。平成24年

度から27年度に発掘調査を行い、

人物や動物などをかたどった形

象埴輪が出土。中でも、筒形の

埴輪の上部に人物の顔を表現し

た『人面付き円筒埴輪』(上の写

真左)は、全国でも群馬県から

栃木県にかけてのみ出土する非

常に珍しい埴輪です。



11月3日(日)／開会式 午前8時

総合運動場陸上競技場 ※雨天決行

種目・定員(先着順)

▷ハーフ=2,000人 ▷10km=1,500人 ▷5km=1,000人
▷3km=500人 ▷3km(ペア)=500組

参加料

▷大人=3,500円 ▷高校生=2,000円
▷中学生以下=1,500円 ▷ペア(1組)=4,000円

制限時間(ハーフのみ)※関門あり。

▷制限時間=スタート後2時間40分(午前11時40分)

★全コースで、交通規制解除後の競技継続不可。

申込期間 7月1日(月)～9月6日(金)



★交通規制の詳細は、本紙10月号と併せてお知らせを全戸配布します。
皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。



**新デザインで今年も販売!
大会オリジナルTシャツ**



申込方法 インターネットまたは
電話で下記の申込先へ

※電話受付…平日10:00~17:30

★スポーツエントリー

☎0570・039・846



★ランネット



足利尊氏公マラソン大会

想いがあるからこそ、走っている。

大会事務局・
市民スポーツ課
☎22232

**至誠
通天**

市長コラム
No.067



和泉 聡

死の自己決定は可能か

今春の東大入学式で述べた祝辞が話題になった社会学者の上野千鶴子さんが、文芸春秋で終末期や死にまつわる連載を書いています。5月号は『死の自己決定は可能か』でした。

東京の福生病院であった透析中止事件を紹介しつつ、上野さんが展開した議論の結論は「死ぬことに自己決定があると思うのは、傲慢だ」でした。

特に警鐘を鳴らしたのは、リビングウイルなどで、延命治療は望まない、健康なうちに意思表示しておくことが、あなたも当たり前のようになっている今の社会の風潮でした。

私は最近、親族を末期がんで亡くし、不必要と思われる治療はしない形で最期を看取りました。記者時代、延命治療のもし陰の部分を集的に取材した経験もあっただけに、上野さんの議論は新鮮で、衝撃的でした。

中でも印象的だったのは、上野さんが医師だったご自身の父を末期のがんで亡くした経験を記した部分でした。父は「日も早く死なせてくれ」と言ったかと思えば、回復の見込みがないのに「リハビリ病院に転院したい」と言ったりして、家族を振り回したそうです。

そして上野さんはこう書きました。「死にゆく人は、気持ちが変わる、揺らぐ、ジェットコースターのようにアップダウンする。その揺らぎにつきあって翻弄されるのが、家族の役目だと父の看取り経験から、わたしは健康な時に書いた日付入りの意思など信じるな、と思うようになった。また、いったん決めたことを最期まで貫くことを、尊いこととも思わなくなった」。人間の感情や行動はいつも矛盾に満ち絶えず揺れ動く。大切なのは、正論を大上段に振りかざすのではなく、こうした矛盾や複雑さについても思いをはせることではないか、と少し前、この欄で書いたことを思い出したのです。